

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動と進路支援	目標	生徒の実情の把握に努め、きめ細やかな進路支援を学校全体で行う。授業の充実を学習活動の中心に据え、学年と教科が緊密な連携を図り、幅広い学力層に対応できる態勢を構築する。また、新課程大学入試の動向把握に努め、速やかな情報提供を図る。
		計画	(1) 学期始めの面接週間に加え、適宜生徒の実態に応じた面接指導を心がけ、年間6回以上の面接を行う。 (2) 学科と教科が緊密に連携を取り合い、習熟度の応じた個別的・主体的取り組みを促し、大学受験に対応できる学力が養成されるよう、自学課題のあり方を工夫する。 (3) 幅広い学力層への対応、意欲的・主体的な学習活動が展開されるよう、教科内で検討・総括を行う。
(2)	学校生活	目標	(1) 自主自律の精神に満ちた主体的に取り組む集団の形成 (2) 生活のリズムを整える食習慣の定着
		計画	(1) 生徒会執行部、校紀委員会の主体的な活動を通して、望ましい校風の醸成を図る。 (2) 朝食を始めとした食習慣の実態を把握し、食事の重要性を理解するとともに、生活習慣を考えさせる。
(3)	学校の活性化	目標	(1) どのような状況においても主体的な活動を心掛け、学校生活の充実に努める生徒の育成 (2) 読書活動の推進 (3) 校内や戸出地域を範囲とした様々な形のボランティア活動を通じて、奉仕の精神を養い、地域愛を育む。
		計画	(1) 学校行事・部活動が制約を受けるなかで、生徒が既存の枠組みにとらわれることなく、主体的に行動できる場面を設定する。 (2) ①朝読書の時間の有効的活用 ②図書館の広報活動（POPカード、校内掲示板、図書だよりなど） ③図書館資料の除籍、廃棄 (3) ①ホームルーム活動等を利用したボランティア活動の機会の保障 ②生徒会によるボランティア活動の企画

項目	目標・方針及び計画
----	-----------

(4)	S O U T H 探 究 プ ロ ジ ェ ク ト	目 標	<p>(1) 大学・地域と連携し、探究力の育成を通して、生徒が本気で学びたいという意欲を涵養し、大学での学びにつなげる。</p> <p>(2) 互見授業参観を実施し、新課程実施に向け授業力を向上する。</p>
		計 画	<p>(1) 地域（企業・行政）と連携し、課題発見・課題解決方法を地域企業・地域行政をテーマにして学ぶとともに、探究学習の基礎（リテラシー）を学ぶ。また身近な地域を課題にして探究をすることで、将来の社会とのかかわり方の視野を広げる。</p> <p>(2) 大学との連携により、探究力・自己発信力を育成する。富山大学との連携により、大学の学びが社会に繋がることを理解させ、学習意欲や進路意識を高める。</p> <p>(3) イノベータープログラム（アントレプレナーシップ教育・グローバル教育）により俯瞰して対象を捉える中で、高い志を持ち主体的に学んでいく力を涵養する。</p>
(5)	人文科学 コースの 活動推進	目 標	コミュニケーション能力や人文科学の専門性が高い人材を育成し、進路実現を図る。
		計 画	<p>(1) 授業「文化と情報」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発見学習や発展学習を多く取り入れることにより、情報発信力、実践力や積極性を育てる。 ・ 外部講師によるセミナー等の校内・校外学習での学びをもとに、発見・発展学習を多く取り入れた質の高い授業を実践する。 <p>(2) 校外校内学習「セミナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多分野の知識を連携し、国際的な視野で思考力・情報発信力を伸長する。ワークショップを通して、国際・社会についての視野を広める。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

	令和6年度高岡南高校アクションプラン - 1 -
重点項目	学習活動と進路支援
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業を通じて学力を伸長することを学校全体で共有し、生徒の進路志望と実態に即した学習活動となるよう工夫する。 ・面接週間を中心に、こまめに生徒との面接を行い、生徒の主体的な学びと自己実現を支援する。 ・令和7年度新課程入試についての情報収集と分析に努める。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒ほとんどが大学進学を志望している。中学までは与えられた課題にまじめに取り組むことで好成績をあげてきた生徒が多いが、自らの進路について明確な目標を持っている生徒は多くない。 ・今後の進路選択に際しては、生徒自身が主体的に自らの将来を見据えて、自己の適性・能力をしっかり認識し、必要な事柄を選び取れる主体的な姿勢を育成しつつ、入試に対応できる学力を身につけていくことが必要である。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路意識向上のための面接指導を、各学年概ね6回以上実施する。 (2) 平日の家庭学習習慣を確立する。平日は1年生2時間、2年生3時間、3年生の6月以降4時間、休日は1年生5時間、2年生6時間、3年生は6月以降8時間を確保できるよう支援する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学期初めの面接週間に加え、定期考査や実力テスト、外部模試の成績表が作成されたときなどに個人面談を行う。必要に応じて担任だけでなく、教科担当者なども交えて面談を行っていく。 (2) 授業の予習・復習・週ごとの課題を中心とした学習習慣の確立を目指す。課題は、生徒一人ひとりの学習実態や希望を考慮した取り組みができるよう配慮しつつ、学年と教科が連携を図り、学習する分量とレベルを設定する。 (3) 各学期末にアンケートを行い、達成度を検証する。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	学校生活
重点課題	(1) 自己教育力を高め、自主自律の精神に満ちた品格ある集団の育成 (2) 生活のリズムを整える食習慣の定着。
現 状	(1) 規律ある行動として「挨拶の励行」「時間厳守」「身だしなみ」「公共でのマナー遵守」「スマートフォンの適切な利活用」を挙げている。今年度は特に、社会的なルール・マナーの意識の向上とマナー遵守の実践に主眼を置きたい。 (2) 健康的で活発な学校生活を送るためにも、異本的な生活習慣を確立する必要がある。そのためには朝食摂取の習慣の確立に向けて、改善すべき余地がある。
達成目標	(1) 社会的なルール・マナーを守り実践する。 90%以上 (2) 朝食を毎日取る習慣が身についている。 90%以上
方 策	(1) ①生徒校紀委員会を中心に各クラスの「行動指針」策定し実践する。 ②「社会的なルール・マナー」についてアンケートを実施し、理解度を高め、実践していく生徒を増やしていく方策については、生徒間で策定したルールを守る形とし生徒の自主性を尊重する。 (2) 生活習慣の実態を把握するとともに、食習慣をはじめとした生活習慣を考えさせる機会を設ける。その機会を利用して、朝食の重要性を啓蒙する。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	学校の活性化
重点課題	(1) 学校行事・部活動を通じて自ら創意工夫に努め、主体的に行動できる生徒の育成 (2) 読書活動の推進 (3) ホームルーム活動などを通じてのボランティア活動の推進
現 状	(1) 学校生活を意義あるものにするために、生徒一人ひとりのアイデアと主体的な姿勢が一層求められている。 (2) 図書の生徒一人あたりの貸出冊数は増加傾向にある。 (R3 2.6冊、R4 3.8冊、R5 5.3冊) (3) 奉仕の精神に富む生徒が多く、ボランティア活動にも意欲的である。
達成目標	(1) 生徒自らが考え、活動する学校生活にするために、一人でも多くの生徒が工夫を凝らし、達成感と自らの成長を実感できることを目指す。 (2) 図書の総貸出数が年間 1900 冊(生徒一人あたり 4 冊)以上を目指す。 (3) 生徒一人ひとりがボランティア活動に年間一回以上参加する。
方 策	(1) 生徒一人ひとりに対し、高校生活が創造力と主体性を発揮する絶好の機会であると捉えさせる。そのために、様々な場面での声かけと側面からのサポートを心掛ける。 (2) ①学年と連携し、朝読書の時間を充実させる。(朝読書用の書籍を図書館から選んでもらう。朝読書に好適な書物の充実を図る。) ②授業や探究活動における図書館書籍の活用が推進されるよう支援する。 ③趣向を凝らしたPOPの作成や新着図書案内、校内掲示板の活用など広報活動に努める。 (3) ホームルーム活動等を利用し、各学年・クラス単位で校舎内外・戸出地区における清掃作業等のボランティア活動の企画・実施を推奨する。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	SOUTH探究プロジェクト
重点課題	「SOUTH探究プロジェクト」の充実発展を目指す。スクールポリシー「SOUTH」を実現するために、地域企業・自治体・大学・PTA等と連携し探究活動を行い、情報発信力や課題解決能力を育成することを目指す。また、探究的な活動を通して、将来の社会とのかかわり方の視野を広げ、生徒のキャリア教育に資する。
現 状	「SOUTH探究プロジェクト」では、探究的な活動を行い、1学年では企業・行政と連携し地域課題をテーマに探究の手法を学ばせている。2学年での大学連携により探究力・自己発信力の伸長が期待されている。学びに向かう姿勢や高みを目指して挑戦する姿勢を高めるためにも、このプロジェクトを系統的に再編・組織化し、伸ばしたい力を計画的に育成する必要がある。
達成目標	SOUTH探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合 80%以上
方 策	<p>「総合的な探究の時間」「理数探究」「ホームルーム」を活用して実施する。</p> <p>① 1 学年 課題の設定や情報活用能力など探究リテラシーを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベータープログラム（アントレプレナーシップ講座・グローバル講座）を実施しデザイン思考を学び、マインドセットを行う。 ・企業訪問「フィールド・スタディ」「インターンシップ」を実施する。デザイン思考を実践し、課題発見・課題解決方法について地域企業をテーマとして学ぶ。 ・地域探究・・・高岡市と連携し、身近な地域を課題にして探究し「課題設定力」「ロジカルシンキング」を学ぶ。また将来の社会とのかかわり方へと視野を広げる。 <p>② 2 学年 1 年間を通して学術型探究活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学連携講座Ⅱ（探究的な活動Ⅱ）・・・富山大学と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験する。仲間と協働しながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、探究力・自己発信力を身につけさせる。更に理系においては数学的・理科的な見方・考え方を組み合わせる。 <p>③ 3 学年 データサイエンス講座により、探究力を高める。</p> <p>④ 海外研修・大学実習（希望者研修）イノベータープログラムを実践する場としてアメリカ研修・大学実習（大阪大学他）を実施予定である。</p> <p>⑤ プロジェクトの評価と改善を行い、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかる。</p>

() 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	人文科学コースの活動推
重点課題	<p>(1) 授業内容を学校全体で共有し、教科間や外部教育機関との連携をとりながら、効果のある学習活動となるよう内容を充実していく。</p> <p>(2) 体験学習を中心に専門的で特色のある学習や活動を取り入れ、国内だけでなく世界において、リーダーとして活躍できる総合的な能力を身に付けさせる。</p>
現 状	<p>(1) 授業と校外校内学習を連動して深め、生徒の能力を伸長できるよう日程や内容を計画・工夫している。</p> <p>(2) 授業「文化と情報」担当者が内容を計画し実施しているが、その内容が校内ではあまり周知されていない。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人文科学コースの授業「文化と情報」で表現することへの関心・意欲とコミュニケーション力が高まった、と感じる生徒の割合が80%以上。 ・校内での授業やセミナーの参加者 のべ30人以上。
方 策	<p>(1) 授業「文化と情報」(2, 3学年)</p> <p><2学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や校内学習での学びを参考に、自身の研究テーマを設定し、調べた内容を日本語や英語で表現する。また、その成果の発表を効果的に行うために、様々な技法やICT機器を利用する。 <p><3学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びを総合的に駆使し、自身の課題を発見し、データ分析をしながら解決策を導き出す。それをまとめて最終的には英語でプレゼンテーションする。そのために本校卒業生が協働活動支援員として生徒をサポートする。また、その成果の発表を効果的に行うために様々な技法やICT機器を利用する。 <p>(2) 校外校内学習「セミナー」(1, 2学年)</p> <p>①サマーセミナー、スプリングセミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関や博物館などの施設で専門的な体験学習を行い、人文科学系の世界に触れ、興味のある分野の知識を深める。 ・人文・社会・国際系で活躍している人の経験談や専門的な話を聴き、ワークショップを通して、国際・社会についての視野を広める。 ・探究活動やプレゼンテーションについて学ぶ。 <p>②ウインターセミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生との意見交換や交流を通して情報発信力、プレゼンテーション能力を高める。また、規律ある態度、責任感、連帯感を培う。

()評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった